

5. 新しい教育体系へ

木内信胤 さっきの^{かな}仮名と^{まな}真名ですが、もう少しその違ひを説明して下さい

石井 中国に^{カシヤ}仮借といふ漢字の用法があります。これはある言葉を表す漢字がない時に、他の同音の漢字を^か借りて代用することですが、この用法による言葉を^{かじ}仮借字といつて、それが略されて^{かじ}仮字となり、我が国では字のことを名と呼びましたので^{まな}仮名となったのだと思ひます。仮借は中国ではサソスクリット語を漢字で表す時に使つてみました。(例・^{ぶつだ}仏陀、^{しゃか}釈迦、^{ぼさつ}菩薩等)その使ひ方はわが国の^{まんえい}万葉仮名と全く同じです。それに対して真の漢字の用法を^{まな}真字と書いて、真を“ま”と読んだのが^{まな}真名だと思ひます。

筧 仮借といふのは本来漢字を使ってサソスクリットならサソスクリットの音を表してゐる。日本の^{へん}仮名は、漢字の^{つくり}扁だけ取つたり^{つくり}旁だけ取つたりした。真の字体ではないといふ意味で^{まな}仮名と言ひ、もう一つを^{まな}真名としたので、共に日本語を表記する^{まな}国字だと思

ふのです。漢字とは違ふだらうと思ふ。

それから^{ちよつと}仮名と^{ちよつと}仮借は一寸違ふのではないですか。

石井 仮借の字といふことで^{まな}仮字と書いたけれどもこれを^{まな}仮名と読む読み方は^{もちろん}勿論国語です。しかし、^{まな}万葉仮名は、明らかに^{まな}仮借による用法です。だから、^{まな}仮名といふ言葉は^{まな}仮借字の略語である^{まな}仮字の国語読みと考へられます。ただし、^{ひらがな}平仮名^{かたかな}片仮名は日本人の^{まな}発明です。日本人は^{まな}万葉仮名といふ^{まな}仮借の用法から、本当に日本語を表すのに^{まな}適当な文字を作り出したのだと考へられます。

木内 議論の違ひがあるやうですが、これはいづれ何らかの方法で皆さんにお知らせするやうにします。

漢字の^{くんよ}訓読みといふことですが、漢字を^{くんよ}訓で読んだのではなくて、日本語の「やま」といふ語に相当する漢字を探してきて「山」とした。これはさう理解していいのですか。

石井 全くその通りです。

木内 さっきの幼稚園児に教へる御話して、その文章は^{まな}漢字^{まな}仮名詰り文ですか、^{まな}漢文ですか。

石井 漢文です。返り点だけあって送り仮名のない漢字ばかりの漢文です。

木内 ^{はし}端なくも思ったのですが、日本人がわけも解らず^{わか}御経を読んで仏教信者になるのと同じですか。解らないことを頭に入れて置くのは教育の基礎だと考へてよろしいですか。

石井 私はさう考へてゐます。子供は解らないものがいくらあっても少しも恐れませんが、何にも解らずに生れて来たのですから。我々大人は解らないものがあるとそれを恐れるし、又、さういふものを拒否したがります。しかし、子供は全然違ひます。いくら解らないものがあってもそれが当たり前だと思つて少しも恐れませんが、大人の考へで子供の教育をしてはいけないと思ふのです。

木内 今日の御話しを^{うかが}伺つて、素晴らしい教育体系が浮んでくるのです。それを我々は石井案を中心に作り上げてゆきたいと思ひます。今の三歳児やゼロ歳児が覚えるといつても^{はち}蜂とか^{せみ}蝉は覚えるでせうが^{ちゅうこうれいぎ}忠孝礼義などといふのは覚えないうでせう。石井先生の方針は、目に見えるものから教へて小学校を終へる^{ころ}頃は国

語は完全になつてゐる。これはそのプロセスが石井先生の理論では十分出来てゐると思ふのです。それをいづれ^き聴くのだといふ前提で今日の話を受留めて^{うけと}いただきたい。蝉や蜂をいくら覚えるからといつて、さう詰^{つめこ}込めるものでもないし、漢字を覚えることと国語を覚えることは一寸^{ちよつと}違ふと思ふ。その体系化された仕組みを、次の時に十分教へていただきたいのです。国語を教へるといつても、国語を通じて哲学や歴史を学ぶわけですから、そんなことも含めてこの次にまた論を深めたいと思ひます。